

CIGARRO

INGREDIENTS

QUALITY / SAFETY / EFFECTIVENESS

CIGARROは使用している全ての成分を公表し、説明します。多くの方々に安心してご使用いただけるよう、肌に優しい原材料を使用しています。

表示名称	説明
B G	水となじみがよく、保水性があるため、水分を吸収して肌をしっとりさせますが、さっぱりとした感触が特徴です。空気中の湿気の少ない時は吸湿性が大きく、湿気が多いときは比較的吸湿性が少ない特性を持っています。
D P G	プロピレングリコールの脱水縮合体で、無色透明な粘性な液でわずかに特異臭があります。皮膚に対してべたつきのない保湿剤として、また製品ののび、滑りをよくする目的の柔軟剤として広く化粧品に使用されています。
E D T A - 2 N a	金属イオンを封鎖することにより、製品品質の劣化を防ぎます。
P C A	白色の結晶または結晶性の粉末でにはありません。皮膚中に存在するNMF（天然保湿因子）の1つで、皮膚や毛髪に柔軟性、保湿性、弾力性を与えます。皮膚の中では塩の形で存在します。
P C A - N a	P C Aのナトリウム塩です。皮膚中に存在するNMF（天然保湿因子）の1つで、皮膚や毛髪に柔軟性、保湿性、弾力性を与えます。
P E G - 1 5 0	酸化エチレンが平均150個結合した重合体で、刺激がなく、古くから化粧水や乳液などのスキンケア製品に、べたつきが少ない保湿剤として用いられています。
P E G - 2 0 ソルピタンココエート	ヤシ油脂肪酸ソルピタンに酸化エチレンを平均20個重合した界面活性剤で、微黄色～黄色のわずかに特異臭がある液体です。優れた乳化能を有する非イオン性界面活性剤で、クリームや乳液などの乳化剤、化粧水の可溶化剤として用いられます。
P E G - 4 0 水添ヒマシ油	トウゴマの種から採取したヒマシ油に水素添加して作られた硬化ヒマシ油に、酸化エチレンを平均40個重合して作られた、油脂ヒマシ油の誘導体です。水溶性に油性成分を溶け込ませるための可溶化剤として用いられます。
P E G - 6 0 水添ヒマシ油	トウゴマの種から採取したヒマシ油に水素添加して作られた硬化ヒマシ油に、酸化エチレンを平均60個重合して作られた、油脂ヒマシ油の誘導体です。水溶性に油性成分を溶け込ませるための可溶化剤として用いられます。
P E G - 9 0 M	分子量約9万の酸化エチレン重合体で、粘性のある成分で、ヘアワックスなどのスタイリング剤として用いられます。
P G	グリセリンに似た外観、特性を持つ無色、無臭の透明な液体であるが、グリセリンに比べて粘度が低いためさっぱりしており、使用感触に優れています。保湿剤として用いられるほか、溶剤として優れた性質があるので、可溶化剤としても用いられ、また抗菌作用もあります。
T E A	乳化するためや石けんを作るためにステアリン酸などの脂肪酸との組み合わせで用いられ、中和剤として用いられます。
アーモンド油	バラ科植物のスイートアーモンドの果実の中にある仁から抽出されるオイルです。オレイン酸・リノール酸をたくさん含み、ビタミンA、B群、Eを含んでいます。やや粘度が低く、サラリとしたライトな使い心地のとても使用感がよいオイルでなじみが良く、湿疹や乾燥、痒みや炎症を伴うお肌を整えてくれます。
アストロカリウムムルムル種子脂	ブラジルに自生するヤシの1つから得られる脂質で、保湿性が非常に高く、クリームやヘアトリートメントに使用されます。
アスパラギン酸	アミノ酸の1つで、アンモニア代謝や尿素サイクルに深い関係があり、体内の老廃物の処理、肝機能の促進、疲労回復などの作用があります。
アニス種子エキス	アニスの種子から抽出されるエキスで、古代エジプトでミラをつくる際、アニスを主要な防腐剤として利用されていました。インドでは今でも食後にアニスの種子をかみ、口の中を清潔にする習慣が残されています。強い抗菌作用をもち、肌を清潔に保ちます。
アボカドエキス	森のバターとも呼ばれているアボカドの果実より抽出したエキスで、脂肪、タンパク質、糖分、ビタミンA、B、Cを含みます。
アラニン	もっとも簡単なアミノ酸の1つで、糖質代謝に重要な関連をもち、脂肪酸の整合性に関与し、化粧品では保湿作用、毛髪保護作用を目的に用いられます。
アルガンアスピノサ核油	アルガンオイルとして知られており、モロッコ南西部に生息するアルガンツリーの種子から得られるオイルで、100kgの果実からわずか1Lしか得られない希少なオイルです。オリーブオイルの2～3倍のビタミンEを含み、エイジングケアや血行促進の働きが期待できるオイルです。
アルギニン	アミノ酸の1つで、肝機能促進薬、肝疾患のアンモニア中毒の治療薬、たんぱく源補給の重要な成分として使用され、化粧品ではアルカリ性の性質をもつことから、中和剤としても用いられる。
安息香酸N a	殺菌作用は弱いですが、強い抗菌作用があります。白色の粒状や結晶性の粉末です。においはなく甘い収れん性の味があります。食品にもよくつかわれる保存料です。
イソステアリン酸水添ヒマシ油	トウゴマの種から採取したヒマシ油に水素添加して作られた硬化ヒマシ油と、大豆由来のイソステアリン酸のエステルオイルで、べたつきがなく、皮膚への密着性が高いため、高い保湿作用が期待できるオイル成分です。
インロイシン	アミノ酸の1つで、骨格筋の成長、生体内のタンパク質合成に用いられ、化粧品では保湿作用、毛髪保護作用を目的に用いられます。
ウイキョウ果実油	セリ科の草本で、果実部分を水蒸気蒸留で抽出したエッセンシャルオイル（精油）です。フェネルともいわれています。スパイシーでありながら、ほのかにフローラルな香りが特徴です。この果実は、インドでは口臭予防を目的に、食後に少量を口に含んで食べられています。
エタノール	トウモロコシなどを発酵させて作られた、一般にいうアルコールです。清浄、殺菌、収れん、乾燥促進などの目的で配合されます。製品の使用感にみずみずしさやさっぱり感を与えます。

エチドロン酸	金属イオンを封鎖することにより、製品品質の劣化を防ぎます。EDTAの代替えとして用いられることもあります。
塩化Na	海水の水分を蒸発させたものをふるいにかけて採取したもので、食卓に置かれるものと純分は同じです。化粧品では製品の安定化としてや、スクラブマッサージとして用いられます。
オクチルドデカノール	植物由来のデシルアルコールを縮重合して得られる高級アルコールで、油性感が弱く、安定性が高いため、クリームや乳液などのオイル成分として用いられます。
オリーブ果実油	生のオリーブの実を加熱せずに果汁を搾って作られるオイルです。オリーブオイルの主成分は、70%を超えるオレイン酸です。オレイン酸は、人の母乳や皮脂に最も多く含まれる成分で、肌の乾燥を防ぎ、保湿力を高める働きがあります。抗酸化作用が高いことも特徴のひとつです。
オレフィン（C14-16）スルホン酸Na	皮膚や眼に対して非常にマイルドな合成された洗浄剤で、起泡性が非常に優れるため、シャンプーやボディソープなどに用いられます。
海塩	海水や、大昔海底だった岩盤から得られる、カルシウム・マグネシウム・カリウムを含む塩です。皮脂腺から余分な皮脂を塩の浸透圧で分離して、お湯と一緒にきれいに洗い流します。臭いの原因となりやすい酸化皮脂も一緒に洗い流すため、肌を清潔な状態に保ちます。
カカオ脂	カカオの種子から得た薄いクリーム色の植物バターです。ノルメチン酸・オレイン酸が含まれ、常温では固体ですが、人の体温ほどの温度で溶けるため、お肌によくなじみます。保湿作用があり、乾燥から肌を守る保護膜を作り、チョコレートのような甘い香りがします。
加水分解ケラチン	羊毛や羽毛などから得られるケラチンを、加水分解することにより分子量を約1000にすることにより、化粧品に配合しやすとした成分で、毛髪の保護やコンディショニング作用として用いられます。
加水分解ホホバエステル	ホホバ油を加水分解して得られた成分で、皮膚コンディショニング作用や、洗浄剤に配合して、洗い流した後も保湿性を残す成分として用いられる。
カナバラ果実エキス	ヨーロッパ産のローズヒップの果実を抽出して得られたエキスで、ビタミンCを豊富に含み、またミネラルも含んでいることから、抗酸化作用やエラスチンの保護作用や角質水分量増加作用があり、お肌を整えることを目的として用いられます。
カミツレ花エキス	キク科の植物カミツレの花から抽出されるエキスです。カモミールとも呼ばれています。古代エジプト時代の人々は、熱病を治すために利用していたようです。皮膚を保護して乾燥から肌を守り、トラブル肌などの敏感肌を健康的に維持する働きがあります。また、肌の痒みを軽減させてくれる働きもあります。
カラギーナン	カラギーナンは海藻類の海藻から得られる天然の水溶性多糖類で、粘度調整剤として用いられます。また保湿効果があり、肌にうるおいをもたらします。
カラスミギ穀粒エキス	オートミールを抽出したエキスで、熱湯で抽出されてミルク状になったものを使用しています。湿疹、かぶれ、虫刺され等のかゆみ対策に作用的と言われており、敏感肌やトラブル肌をもとの状態へ戻すサポートをしてくれます。敏感肌の保湿にも優れています。
カラメル	砂糖やグルコースなどの糖類、でんぷんなどを加熱することで得られる天然着色料です。
カリ石ケン素地	石鹸素地は油脂の中に含まれる脂肪酸と水酸化カリウム（苛性カリとも呼ばれます）を混ぜて化学反応をさせた液体状のもので、石鹸自体は紀元前2800年頃から利用され、人類の長い歴史の中で安全性が確認されている数少ない物質の一つです。
カンゾウ根エキス	マメ科の多年草、甘草の根から抽出されるエキスで、リコリスエキスともいわれます。「生薬の王」と呼ばれる甘草は、4000年もの昔から薬用植物として使用され、人類が手にした薬草の中では最も古いといわれてきました。リコリスに多く含まれるフラボノイドには、肌荒れ予防の抗酸化作用などがあるといわれています。また、刺激緩和作用や消炎作用も期待されます。
カンフル	クスノキの原木を細片とし、水蒸気蒸留にて得られる無色または白色半透明の結晶で、特異な芳香を有し、清涼感があります。局所刺激作用があり、かゆみ止め作用があります。
キャンデリラロウ	メキシコ北部をはじめ、カリフォルニアの南部、テキサス地方などの半乾燥地域に生息するキャンデリラの茎から得られた黄褐色の植物性のロウで、融点が高く口紅などの成型が必要な製品や、ヘアワックスのスタイリング剤として用いられます。
グアーヒドロキシプロピルトリモニウムクロリド	マメ科の植物であるグアーから得られた多糖体に、アルキルカチオンを付加重合して得られたカチオン性ポリマーで、コンディショナーに配合して毛髪のきしみを抑えて、さらっとした手触りに導きます。
クエン酸	レモンやミカンなどにも含まれる酸味成分として一般的によく知られ、でんぷん質などを発酵して得られます。収れん作用やキレート作用として、化粧品に汎用されています。
クエン酸Na	クエン酸のナトリウム塩で、クエン酸と一緒に配合して緩衝溶液を作るため、化粧水などの安定化として用いられます。
クワイナッツ油	キャンドルナッツオイルともいわれ、トウダイグサ科のクワイの種子から得られる淡黄色の透明液体で、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸を多く含み、皮膚によく浸透し、ドライスキンを柔軟にする作用があります。
グリシン	もっとも簡単なアミノ酸の1つで、不飽和炭素原子を持たない唯一のアミノ酸です。解毒作用があり、化粧品では保湿作用、キレート作用、毛髪保護作用を目的に用いられます。
グリセリン	古くから使われてきた保湿成分のひとつで、体内の酵素により砂糖と同じように分解されます。天然の皮膚成分のひとつです。主に、ヤシ油やパーム油などの天然油脂をアルカリでけん化したときに、石けんとともに精製されます。保湿の働きに優れ、肌を柔らかくしてしっとりとした感触を保ちます。
グリチルリチン酸2K	カンゾウの根から得られる成分で、古くから抗炎症成分として漢方にも取り入れられており、医薬部外品の有効成分としても用いられます。
クロフサスグリ果実エキス	クロフサスグリの果実から抽出されるエキスです。カシスエキスともいわれます。ビタミンやミネラル、アントシアニンなどが豊富に含まれた高い栄養価を持つ果実です。カシス特有のアントシアニンは、末梢血管の血流を良好にすることで、目元のクマや肌のくすみを軽減させる働きがあるといわれています。
ケイ酸（Al/Mg）	モンモリロナイト鉱物の1種である、サポナイトを主成分とする粘土鉱物で、水に膨張してゲルを形成するため、製剤の安定化のために用いられます。
香料	香りをたたせる成分で、合成香料、天然香料があります。
ココミドDEA	植物油由来の原料を使用しています。ヤシ脂肪酸とジエタノールアミン（DEA）を縮合して得られるジエタノールアミドです。洗浄剤に加えた場合、泡の安定性、増粘、起泡、洗浄性を高める作用があり、他の界面活性剤の補助として用いられます。

ココミドプロピルベタイン	ヤシ油脂脂肪酸と砂糖大根由来のベタインを合成して得られた両性界面活性剤で、低刺激の洗浄剤で、洗顔料、シャンプーの洗浄補助成分として用いられます。
ココミドメチルMEA	ヤシ脂肪酸とモノエタノールアミンを縮合して得られるモノエタノールアミドです。洗浄剤に加えた場合、泡の安定性、増粘、起泡、洗浄性を高める作用があり、他の界面活性剤の補助として用いられます。
ココアンホ酢酸Na	植物油由来の原料を使用しています。カチオン（陽イオン）基とアニオン（陰イオン）基の両方が分子の中に含まれています。油脂を乳化させる作用があり、乳化剤、洗浄剤、気泡剤、ヘアコンディショニング剤として使われます。硬水でも洗浄性や起泡力があります。肌への保湿作用があります。
ココイルアルギニンエチルPCA	植物由来のヤシ油脂肪酸とアミノ酸のL-アルギニンのエステルにPCAで中和したカチオン界面活性剤で、天然由来の防腐剤として用いられます。
ココイルグルタミンTEA	グルタミン酸とヤシ油脂肪酸との混合物のトリエタノールアミン塩のアニオン界面活性剤で、優れた気泡力、洗浄力を持ち、生分解性が優れています。使用後は滑らかな感触を得られ、洗顔料やシャンプーなどの洗浄剤に汎用されています。
ココイルメチルタウリンNa	ヤシ油脂肪酸とタウリン誘導体で構成されたアニオン界面活性剤で、低刺激性洗浄剤として洗顔料やシャンプーなどの洗浄剤に用いられます。
ゴボウ根エキス	ゴボウの根から抽出したエキスで、保湿作用、フケ・脱毛予防、血行促進作用を目的として用いられます。
ゴマ種子油	ゴマの種子から抽出されたオイルで、活性酸素を抑える働きのあるセサミン、セサミノールという抗酸化物質が含まれていることにより酸化しにくいオイルです。紫外線のダメージを予防し、肌のくすみを改善する作用もあります。
コムギ胚芽油	小麦の胚芽から抽出されるオイルです。皮膚からの吸収がとてよく、しもやけや肌荒れ、乾燥した肌、炎症した肌、老化肌を整え、肌ハリとツヤを与えてくれるオイルです。また、抗酸化作用が強いビタミンEが多く含まれ、紫外線から肌を守り、シミやそばかすの予防も期待できます。
シア脂	シアの木の果実からつくられる植物バターです。保湿作用が高く、お肌の組織回復力を高めてくれるので乾燥肌、老化肌に適しています。紫外線防止作用もあるので、シワや日焼けした肌の予防やケアに使われます。
シクロペンタシロキサン	シロキサンというシリコーンの5量体、環状を有する構造で、揮発性があり、べたつきを抑制するため、ファンデーションなどのメイクアップ化粧品や制汗剤などに用いられます。
脂肪酸(C14-28)	炭素数C14-28の脂肪酸の混合物で、毛髪に存在する脂肪酸組成に似た組成を持ち、毛髪のコンディショニング剤として用いられます。
ジメチコン	シロキサンというシリコーンのポリマーで無色透明な液体で、べたつきがなく、さらっとした使用感を与えるため、メイクアップ化粧品やクリーム、乳液、コンディショナー等、あらゆる化粧品に汎用されています。
ショウガ根茎エキス	ショウガの根茎のエキスで、漢方ではショウキョウの名で知られています。ジンゲロールを含み、血流促進、発毛促進作用が期待され、シャンプー、コンディショナーなどのヘアケア商品に用いられます。
水酸化K	薄い水溶液は皮膚表皮を軟化させる作用があります。脂肪酸と結合させて石けんを作ったり、乳化剤としてクリーム、乳液などに使用されています。
水添ナタネ油アルコール	ナタネ油から取れる脂肪族アルコールを水添した高級アルコールです。脂肪酸組成が幅広いので、乳化安定性に優れ、乳化助剤として使われます。
スクワラン	オリーブから得られるスクワレンを水素添加した成分で、エモリエント作用が高く、クリームなどのスキンケア化粧品に汎用されています。
ステアラミドプロピルジメチルアミン	ステアリン酸とジメチルアミンの合成によって生成するカチオン界面活性剤で、帯電防止、柔軟性付与を目的としてコンディショナー、トリートメントに用いられます。
ステアリルアルコール	ナタネ油やヤシ油から得られる炭素数18の高級アルコールで、乳化助剤や、ヘアコンディショナーの安定性を保つために用いられます。
ステアリン酸	ヤシ油やパーム油を由来とした飽和脂肪酸の一つで、水酸化カリウムやトリエタノールアミンなどと反応して界面活性剤としての働きを持つため、洗浄剤や、少量の場合は乳化剤として用いられます。また単体でも油性成分として肌の潤いを保つ成分として用いられます。
ステアリン酸PEG-10	ヤシ油やパーム油を由来としたステアリン酸と、ポリオキシエチレンの化合物で、泡立ちはないが、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
ステアリン酸グリセリル	ヤシ油やパーム油を由来としたステアリン酸と、植物由来のグリセリンの化合物で、泡立ちはないが、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
ステアリン酸グリセリル(SE)	ヤシ油やパーム油を由来としたステアリン酸と、植物由来のグリセリンの化合物を主成分として、ほかの界面活性剤を混ぜ合わせた成分です。通常の乳化剤は何種類か混ぜ合わせて乳化して安定化させますが、この成分は1つで乳化安定化できるため、クリームや乳液などに汎用されています。
スペアミント油	紫色の花を付けるシソ科の多年生植物で、開花時の先端部分を水蒸気蒸留で抽出したエッセンシャルオイル（精油）です。「スベア」は「槍」という意味で、スペアミントの葉の先端が尖っていることからこの名前がつけられています。ペパーミントよりも甘みがありマイルドで心地よい清涼感を残してくれる香りです。
炭	ウバメガシなどカシの木類を1000℃以上の高温で焼いた備長炭です。炭には良質なミネラルがたくさん含まれているので、肌の健康を促して良い状態に保つことができます。また、炭には臭いや汚れを吸着させる力があるので、皮膚の常在菌が繁殖してしまっている肌を清潔な状態に保つことができます。
セイヨウハッカ葉エキス	ペパーミントの葉から抽出されたエキスで、収れん作用、抗菌作用、消炎作用を持つため、肌を清潔にしてキメを整える働きがあります。主成分のメントールはお肌に良いと言われ、ほてりを和らげてくれます。マンガン、ビタミンC、ビタミンAの含有量が強く収れん作用があるので、脂性の肌・頭皮に作用的です。
セージ葉エキス	シソ科の多年草ヤクウサルビアの葉から抽出されるエキスです。昔から、庭にセージがある家では病気で死なないといわれており、「長寿のハーブ」ともいわれているようです。育毛・抗炎症・抗酸化・抗アレルギー・抗男性ホルモン・収れん・抗菌・制汗・防臭などの働きがあるといわれています。
セタノール	ナタネ油などから得られる炭素数16の高級アルコールで、クリームなどの乳化系の安定化を目的として汎用されています。
石ケン素地	石鹸素地は油脂の中に含まれる脂肪酸と水酸化ナトリウム（苛性ソーダとも呼ばれます）を混ぜて化学反応させた固形状のもので、石鹸自体は紀元前2800年頃から利用され、人類の長い歴史の中で安全性が確認されている数少ない物質の一つです。
セテアレス-60ミリスチルグリコール	ナタネ油を由来としたセタノールと、酸化エチレン約60量体の化合物に、ミリスチルグリコールを反応させた成分で、シャンプーなどの洗浄剤の増粘、安定化のために用いられます。

セテス-6	ナタネ油を由来としたセタノールと、酸化エチレン6量体の化合物で、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
セテス-7	ナタネ油を由来としたセタノールと、酸化エチレン7量体の化合物で、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
セテス-10	ナタネ油を由来としたセタノールと、酸化エチレン10量体の化合物で、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
セテス-13	ナタネ油を由来としたセタノールと、酸化エチレン13量体の化合物で、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
セテス-20	ナタネ油を由来としたセタノールと、酸化エチレン20量体の化合物で、優れた乳化能があるため、クリームなどの製剤に用いられます。
セリン	アミノ酸の1つで、多くのタンパク質に含まれ、化粧品では皮膚柔軟性向上や弾力性改善目的に用いられます。
ソルビトール	広く自然界に存在する多価アルコールで、白色の粉末で清涼な甘味がある成分です。水分を一定に保持する性質があるため、保湿作用を目的に、化粧水やクリームなどに用いられます。
チャ葉エキス	日本産の茶から抽出したエキスで、ポリフェノールやカフェインを多く含み、抗酸化作用を目的として用いられます。
ツバキ種子油	日本産の椿から採取される無色～微黄色のオイルで、オレイン酸を多く含み、皮膚に関して高いエモリエント作用をもつことから、クリームやヘアトリートメントに汎用されます。
ティーツリー葉油	フトモモ科のオーストラリア原産の高木で、葉や枝部分を水蒸気蒸留で抽出したエッセンシャルオイル（精油）です。身体に対して優れた作用を持つことから、オーストラリアの原住民アボリジニに古くから利用されてきました。清潔感あふれる香りで、デオドラントにも優れています。
テオブロマグランジフロム種子脂	アマゾンに生息するクブアスの種子から採取されたオイルで、クブアスはブラジルでは「神様がくれた果実」と呼ばれています。抱水性が高く、消炎作用もある油剤であるため、バリア機能の低下したお肌、乾燥性敏感肌に最適な成分です。
デキストリン	キャッサバなどを由来とした低分子の炭水化物で、成分を抱え込む性質があるため、安定に有効成分や香料を配合するために用いられます。
テトラオクタン酸ペンタエリスリチル	オクタン酸と、糖の1つであるエリスリトールのエステルオイルで、無色透明液体でコクがあり、エモリエント作用が高いため、クリームの使用性改善やヘアトリートメントに用いられます。
トウキンセンカ花エキス	カレンデュラエキスは、キク科のキンセンカの花から抽出したエキスです。抗菌、殺菌作用が高く、肌荒れ、アトピーなど皮膚に炎症が見られる時に有効といわれます。ヨーロッパでは、傷や肌荒れ、日焼けの治療薬として、古くから民間療法で使われていました。タンパク質とコラーゲンの代謝を促進して、新しい健康な細胞が発達するのを助けるといわれます。
ドクダミエキス	ドクダミ科の植物のドクダミの葉、茎から抽出されるエキスです。昔から日本で知られる民間薬で、肌の状態を改善するさまざまな働きがあることから「十薬」とも呼ばれています。強い抗菌作用により、創傷の治療に用いられていたことから、肌荒れやにきびの予防に役立ちます。抗炎症、収れん作用もあります。
トコフェロール	大豆由来の抗酸化成分で、ビタミンEとも呼ばれます。製剤の安定化はもちろん、皮膚に対しても抗酸化作用や肌荒れ防止などを目的に用いられます。
トリイソステアリン酸PEG-30グリセリル	ポリオキシエチレングリセリルとイソステアリン酸のトリエステル化によって得られたエーテルエステル化合物です。植物油脂との相性が良く、乳化剤として用いられます。
トレオニン	アミノ酸の1つで、低たんぱく血症、点滴などに用いられ、化粧品では保湿作用を目的に用いられます。
トレハロース	2分子のグルコースが結合した成分で、保湿作用が高く、角質水分量を増加させることを目的に用いられます。
乳酸	動物界に広く存在する成分で、発酵法を用いて生成されます。角質溶解性があるためピーリング化粧品に用いられるほか、乳酸ナトリウムと併用して緩衝液を作り、化粧水などを安定化させるために用いられます。
乳酸Na	乳酸のナトリウム塩で、乳酸と併用して緩衝液を作り、化粧水などを安定化させるために用いられます。
ハイブリッドサフラワー油	ヘゴバナの交雑種の種子から得られるオイルで、角質軟化作用があり、髪や肌表面を滑らかでやわらかい状態に整え、皮膚を乾燥から守る働きを目的に用いられます。
ハチミツ	ミツバチの分泌物から得られる成分で、産地によって味、香りは異なります。ハチミツに含まれるビタミンの仲間であるナイアシンは、肌荒れを予防する作用があり、肌のきめを細かく整える作用もあるとされています。ハチミツは保存期間が長く、高い殺菌作用や消炎作用が認められています。
パチヨリ油	シソ科の大きなやわらかい葉をもつ植物で、乾燥した葉を水蒸気蒸留で抽出したエッセンシャルオイル（精油）です。ゆったりとしたコクを湛えた深みのある香りは、どことなく懐かしさも感じさせてくれます。ワインと同じように年月とともに香りがよくなる数少ない精油です。
ハッカ油	北海道北見地方のハッカから得られる精油で、主成分としてメントールを含み、爽快な香りと、皮膚に対してはスツとした使用感を感じます。
ハマメリス水	ハマメリス水とは、マンサク科の植物アメリカマンサクの小枝や樹皮、葉を水蒸気蒸留して作られた芳香蒸留水です。ハマメリスは学名の一部で、日本名をアメリカマンサク、英名をウィッチヘーゼルといいます。アメリカの先住民は薬として傷や皮膚の炎症の緩和に利用していたと伝えられています。優れた収れん作用があり、皮脂の分泌をコントロールする作用があります。
バラエキス	バラの花から抽出したエキスです。バラの特性である抗アレルギー性、殺菌・抗菌性をもちます。肌を引き締める成分であるグリセロールが含まれており、肌を清浄にし、消炎作用もあるため日焼けした肌などのほてりを抑えることもできます。また肌に弾力を与えるネロールという成分は、シミやソバカスを防ぎ、肌にうるおいを与えてくれます。
パラフィン	石油の原油を蒸留し、最後に残ったものを精製したもので、白色のやや透明な結晶性の炭化水素です。ミネラルオイル同様に無色無臭で、化粧品ではクリームや口紅、ヘアワックスなどに用いられます。
パリン	アミノ酸の1つで、食品調味料に用いられ、化粧品では保湿作用を目的に用いられます。
パンテノール	プロビタミンB5として知られている成分で、養毛、育毛、かゆみ防止などの作用があり、シャンプー、コンディショナー、育毛剤などのヘアケア製品やマスカラなどに用いられます。
ヒスチジン	アミノ酸の1つで、神経機能補助などの働きがあり、化粧品では保湿作用を目的に用いられます。
ビターオレンジ花油	別名ネロリ油と呼ばれ、ビターオレンジの花から得られた精油です。ネロリにはリラックス作用があり、不眠症の改善やすくたれるを軽減させる作用があります。

ヒドロキシエチルセルロース	バレルを由来とするセルロースとヒドロキシエチルのエステルで、安全性が高く医薬品にも用いられる高分子です。化粧品には増粘作用、使用性改善などを目的に用いられます。
ピワ葉エキス	ピワの葉から抽出したエキスで、ブドウ糖、ショ糖、果糖や酒石酸、クエン酸などの有機酸、さらにはタンニンなどを含んでおり、抗炎症作用、抗菌作用、収れん作用などを目的として用いられます。
フェニルアラニン	アミノ酸の1つで、各種のタンパク質中に2～5%存在し、タンパク質生成の原料として栄養、成長に欠かせない成分です。化粧品では保湿剤として用いられます。
フェニルトリメチコン	シリコン成分のジメチコンにフェニル基を結合させた成分で、べたつきがないが、しっとり感があるため保湿性の付与として用いられるほか、シリコンと油性成分の安定配合の目的としても用いられます。
フェノキシエタノール	グリコールエーテルというアルコールの一種です。玉露の揮発成分として発見された、自然界に存在する成分です。緑膿菌に対して高い殺菌作用をもち、防腐剤、殺菌剤として使用されています。
ブドウ葉エキス	アカブドウの葉から抽出して得られるエキスで、タンニン、アントシアニン、糖質などを含みます。消炎作用、収れん作用、血行促進作用などを目的として用いられます。
フコポダイジュエキス	フコポダイジュエキスは、ポダイジュの花または葉から抽出して得られるエキスです。リンデンエキスやシナノキエキスともいわれます。花の良い香りは眠りを誘い、ハーブティーとしても利用され、精神的ストレスを緩和するほか、不眠症や子供の興奮状態を落ち着かせてきました。保湿作用・収れん作用・血行促進作用などの働きも期待できます。
プロパンジオール	糖を発酵させて得られる植物由来のポリオール成分で、角質水分量増量作用や抗菌作用があり、合成成分のB GやP Gなどの代替品として用いられます。
プロピルパラベン	パラオキシ安息香酸とプロパノールのエステルで、静菌作用が強く非常に広範囲の微生物に効果があるため、汎用されている成分です。昨今安全性の懸念から敬遠されることが多い成分ですが、少量の配合で製品の防腐力効果があり、防腐剤の全量を抑えられるため、肌に対して刺激が緩和になります。
プロリン	アミノ酸の1つで、ゼラチンにもっとも多く含まれます。化粧品にはコンディショニング作用を目的に用いられます。
分岐脂肪酸 (C 14 - 28)	炭素数C 14～28の分岐脂肪酸 (イソ体) の混合物で、毛髪に存在する脂肪酸組成に似た組成をもち、毛髪のコンディショニング剤として用いられます。
ベヘニルアルコール	ナタネ油から取れる脂肪族アルコールであり、高級アルコールです。一般的にアルコールと称されるエチルアルコールとは性質も作用も異なるため、アルコールフリーの商品にも使われています。乳化安定性に優れ、乳化助剤として使われます。
ベントリモニウムクロリド	ナタネ油から得られるベヘニルアルコールをベースに4級カチオンを反応させたカチオン性界面活性剤で、毛髪に柔軟性を与え、帯電を防止する作用があり、コンディショナー、トリートメントなどの製品に用いられます。
変性アルコール	合成や植物発酵で得られたエタノールに変性剤を配合し、飲用として用いられないようにしたアルコールです。
ホホバ種子油	ホホバの種子から作られるオイルです。ホホバの木は砂漠生まれの植物なので、非常に優れた保湿作用と紫外線から守る働きに優れます。主成分ワックスエステルは、皮脂と同じ構造を持っているため、肌になじませると体内からの皮脂の過剰分泌を抑制し、分泌量をコントロールします。
ポリクオタニウム-7	ヤシ由来のステアリン酸をベースに4級カチオンを反応させたカチオン性界面活性剤で、毛髪に吸着されて癖どりをよくするため、コンディショナーやトリートメントに用いられ、毛髪に柔軟性、平滑性を与えます。
ポリクオタニウム-10	バレル由来のヒドロキシエチルセルロースと4級カチオンの反応によって得られるカチオン性高分子で、毛髪に付着して保護し、コンディショニング作用をもたらすため、コンディショナーやトリートメントなどの製品に汎用されます。
ポリクオタニウム-50	合成で生成される成分で、クリーミーで弾力感のある泡にする作用があり、洗顔料やシャンプーに用いられます。
マイクロクリスタリンワックス	石油の原油を蒸留して得られる白色～淡黄色のやや透明な塊の炭化水素です。ミネラルオイル同様に無色無臭で、粘り気が強く、他のワックス成分の結晶成長を抑制する働きがあるため、化粧品ではクリームや口紅、ヘアワックスなどに用いられます。
マカデミア種子油	マカデミアナッツの果実から抽出されるオイルです。人の皮脂中に多量に存在するパルミトレン酸を含み、皮膚細胞の再生に大きな役割を果たすといわれ、老化防止作用の高いオイルです。ビタミンA・B・Eとミネラル分を含んでいます。その肌への浸透性は、「消え失せる油」と言われるほど高い浸透性を持ちます。
水 (精製水)	水道水をイオン交換樹脂など通過させるなどして、余計な塩分などを除去した無味無臭の液体です。クリーム等の製剤の安定性を保つため、水道水ではなく精製水を用いられます。
ミツロウ	ミツバチの巣から作られたロウ (ワックス) です。肌や唇をしっとりやわらかくする働きがあり、保湿作用にも優れ、ビタミンB群を多く含有しています。また、殺菌作用のあるフラボノイドも多く含まれています。ヨーロッパの民間療法として、肌の炎症や切り傷、火傷にも作用があるとして、家庭で広く利用されてきました。
ミネラルオイル	石油の原油を蒸留し、パラフィンなどの固形成分を取り除いた透明な液体です。無色無臭で、粘度は幅広くラインナップがあり、その使用用途によって使い分けられ、クリームや口紅、ヘアワックス、クレンジングオイルなどに汎用されています。
ミリスチン酸	植物油由来の原料を使用しています。飽和脂肪酸の1つで、洗浄剤・乳化剤として使用され、石けんを作ります。泡立ちがよくて、柔らかい泡を作ります。
(メタクリル酸グリセリルアミドエチル/メタクリル酸ステアリル) コポリマー	「セラキュート」という原料で、肌のしわ改善作用や毛髪のボリュームアップ作用の働きがある成分です。
メチルイソチアゾリノン	ごく少量で作用を示す防腐剤で、シャンプーなどの洗い流す製品にのみ使用が認められている成分です。パラベンの代替として用いられることもあります。
メチルクロロイソチアゾリノン	ごく少量で作用を示す防腐剤で、シャンプーなどの洗い流す製品にのみ使用が認められている成分です。パラベンの代替として用いられることもあります。
メチルパラベン	パラオキシ安息香酸とメタノールのエステルで、静菌作用が強く非常に広範囲の微生物に効果があるため、汎用されている成分です。昨今安全性の懸念から敬遠されることが多い成分ですが、少量の配合で製品の防腐力効果があり、防腐剤の全量を抑えられるため、肌に対して刺激が緩和になります。
メントール	セイヨウハッカの葉より得られるペパーミント油やハッカ油の主成分であり、芳香と清涼感を有する結晶です。知覚神経末梢を一時的に強く刺激し、鎮痛、止痒作用があり、爽快感を与える製剤に用いられます。

モロッコ溶岩クレイ	アトラス山脈につづく丘陵地帯のガッスールの山から採掘された2億1000万年前～1億4000万年前に作られたといわれる粘土です。イオン化した粘土の粒子が磁石のように汚れを吸い寄せる力を持ち、その優れた吸着力で汚れをきれいに落とし、粘土にたっぷり含まれたマグネシウム・カルシウムなどのミネラルの働きでお肌をしっとり潤わせてくれます。
ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル	ヤシから得られたヤシ油脂肪酸とグリセリンのエステルに酸化エチレンを7量体重合した界面活性剤で、カチオン、アニオンそれぞれの界面活性剤とも親和してエモリエント作用を発揮したり、メイクとの馴染みもよく、クレンジング料に用いられたりします。
ユーカリ葉油	フトモモ科の非常に背の高い常緑樹で、葉や枝部分を水蒸気蒸留で抽出したエッセンシャルオイル（精油）です。ユーカリの木は非常に生命力が強く、その葉は古くから解熱に使われてきました。清涼感があり、クールで染み透るような香りが特徴で、デオドラントにも優れています。
ラウラミドDEA	植物油由来の原料を使用しています。ヤシなどの植物油由来のラウリン酸とジエタノールアミン（DEA）を縮合して得られるジエタノールアミドです。洗浄剤に加えた場合、泡の安定性、増粘、起泡、洗浄性を高める作用があり、他の界面活性剤の補助として用いられます。
ラウラミドプロピルベタイン	植物油由来の原料を使用しています。使用感はとてマイルドで、コンディショニング作用もある洗浄剤です。洗ったあともごわつかず、しなやかに仕上がります。ベビーシャンプーにもよく使われ、また生分解性も高いともいわれています。
ラウリン酸	ヤシなどを由来とした炭素数12の脂肪酸で、水酸化カリウムなどのアルカリと反応させて石鹸を得ます。その石鹸は泡立ちが早いいため、洗顔料やボディソープなどに用いられます。
ラウリン酸ポリグリセリル-10	ヤシなどを由来としたラウリン酸とグリセリンの10量体のエステルで、親水性が高いので、ほかの乳化剤を組み合わせることでクリームを形成するために用いられます。
ラウレス-6カルボン酸Na	ヤシ油を由来とするラウリルアルコールと酸化エチレンの6量体の化合物に脂肪酸を付加したアニオン界面活性剤で、洗浄力は高いが刺激は低い洗浄剤として、シャンプーや洗浄剤に用いられます。
ラウレス硫酸Na	植物油由来の原料を使用しています。高い洗浄力をもち、泡立ちを良くする洗浄剤です。
ラウロイルグルタミン酸ジ (フィトステリル/オクチルドデシル)	「エルデュウ」の名前でも知られており、アミノ酸や天然由来の成分でできた粘性がある油性で、肌水分を閉じ込める力が高く、もっちりとした肌にする作用があり、クリームや乳液、トリートメントなどに用いられます。
ラウロイルメチルアラニンNa	ヤシ油などを由来としたラウリン酸とアミノ酸のメチルアラニンから得られたアニオン性界面活性剤で、適度な洗浄力と脱脂力があり、しっとりとした洗い上がりを与えるため、シャンプー、洗顔料などに汎用されます。
ラバンデュラハイブリダ油	真正のラベンダーとスパイクラベンダーが蜂の媒介で自然に交配した混合種で、ラベンダーに比べて強靱、大柄で、荒れた土地でも生息する植物のラバンジンの花から得られた精油です。ラベンダー油よりも香りが強く、心の疲れをリフレッシュさせます。
ラベンダー花エキス	シソ科植物のラベンダーの花から取られるエキスです。ハッカに似た芳香があります。地中海沿岸地方原産の多年草で、古代ギリシャ・ローマ人はラベンダーを入れた湯で入浴しました。名前もラテン語のラバール（lavare、入浴する）に由来します。殺菌作用、抗菌作用、収れん作用があります。また、抗炎症、治療作用にも優れ、ニキビの予防にも役立ちます。
硫酸Mg	一般的には豆腐の凝固剤であるがかりとして知られている成分で、化粧品には浴用剤の温浴効果を目的として、また乳化安定化を目的として用いられます。
リンゴ酸	フルーツ酸の1つで、リンゴなどの果実に含まれる成分です。化粧品にはpHの調整剤やピーリングを目的として用いられます。
ローズマリー葉エキス	シソ科の植物マンネンロウの葉から抽出したエキスです。ローズマリン酸・テルペノイド・フラボノイド・タンニンなどを含み、抗酸化作用や抗炎症作用、収れん作用、抗菌作用、血行促進作用、育毛作用、フケ防止作用があるといわれています。肌にはハリを与えてみずみずしく保ちます。
ローズ油	バラの花を溶剤抽出したアブソリュート（精油）です。原料となるバラの花は、もっともオイルの含有量が高くなる早朝に花を摘み取られます。「香りの女王」と呼ばれるほど、美しく高級感に満ち溢れたエレガントな香りが特徴です。数ある精油の中でも、最も美しく、最も魅惑的なものと言ってよいでしょう。
ワセリン	石油から得られる半固形の炭化水素の混合物で、ミネラルオイル（液体）とパラフィン（固体）の間の非晶質です。粘着力が強く、肌の水分蒸散を抑える働きがあり、その効能効果からワセリンのみで医薬品として販売されているものもあります。